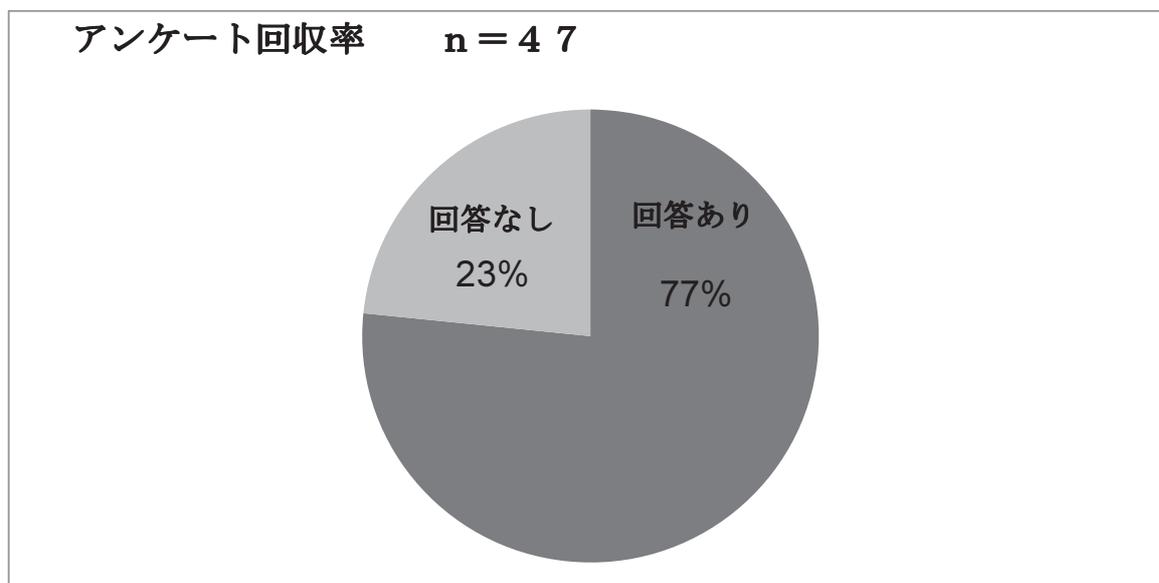


## II 調査研究の結果

### 1 図書館(公立図書館)対象アンケート調査

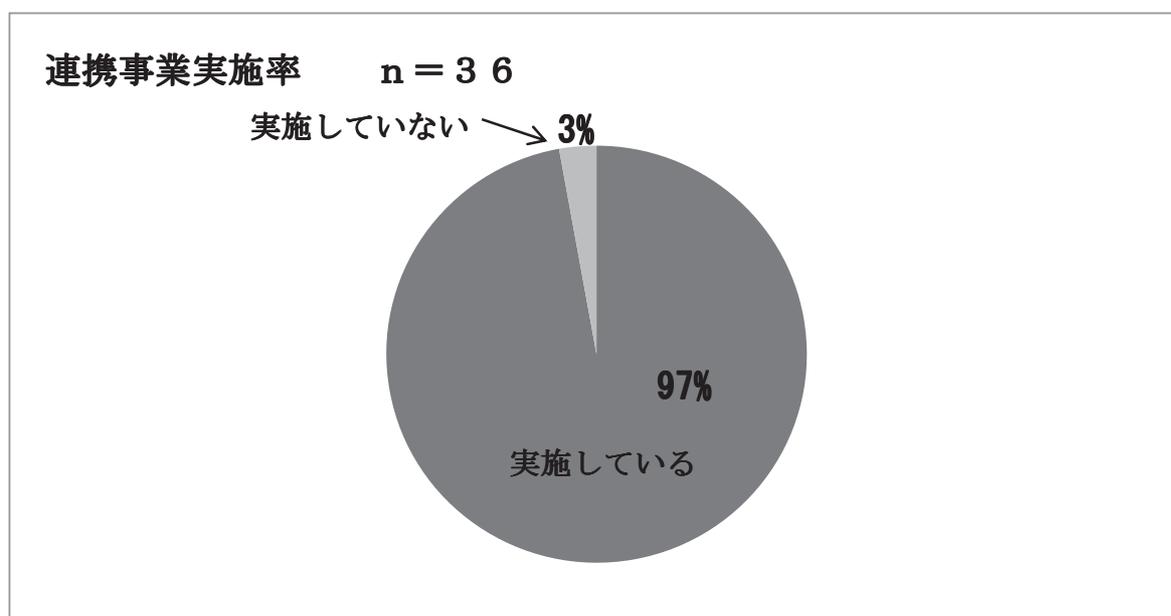
県内 47 館の図書館を対象に実施した。そのうち 36 館から回答を得た。回収率は 77%であった。



**問1 貴館は、学校と連携した事業（学校に向いての読み聞かせ、図書の貸出、司書教諭等への研修など）を実施していますか。該当する記号に○をつけてください。 n = 36**

回答をいただいた 36 館中、35 館(97%)から学校との連携事業を「実施している」との回答を得た。ほとんど全ての図書館では学校との連携が行われていることがわかる。

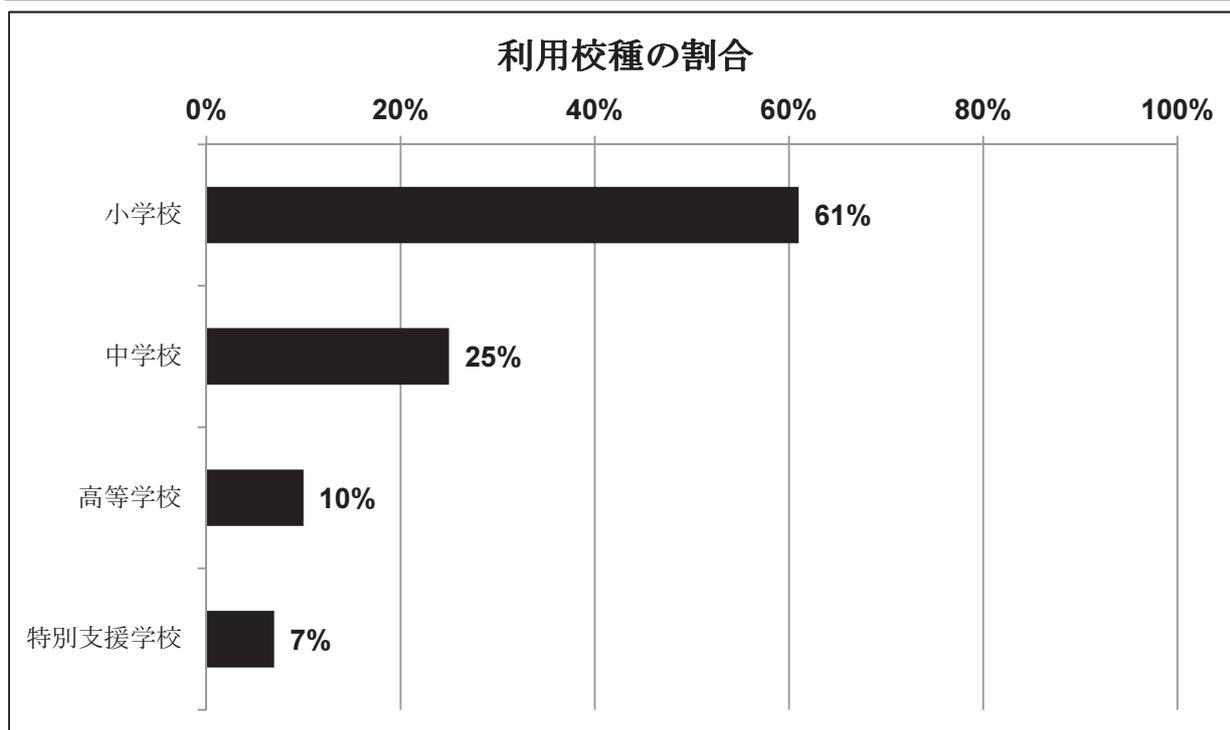
(なお、35 館のうち 1 館は、「実施していない」に回答しているが、設問 2 で実質的に連携している記述がみられ、連携事業のとらえ方が異なっていたことがわかったので、「実施している」に加えた。)



**問2** いいえの理由はどのようなものですか。理由を記入してください。

36館中、1館（3%）が連携事業を「実施していない」と回答しているが、その理由についての記述はなかった。

**問3** 学校との連携に関して、貴館を利用している学校の校種別利用状況は、概ねどの程度ですか。  
(合計が10割となるよう0~10で記入願います。) n = 34



校種別利用状況では、小学校が61%と他を圧倒する。次いで、中学校の25%、さらに高等学校の20%、「特別支援学校」の7%と続く。この比率は、県内の学校種別の比率とほぼ同じであり、特徴的な現象は見られない。いわば、小学校の利用が多いのは、学校数が多いだけであり、小学校に特に力点が置かれているわけではない。小学校の連携内容としては、総合的な学習の時間や読書活動が展開されているなどがあげられる。

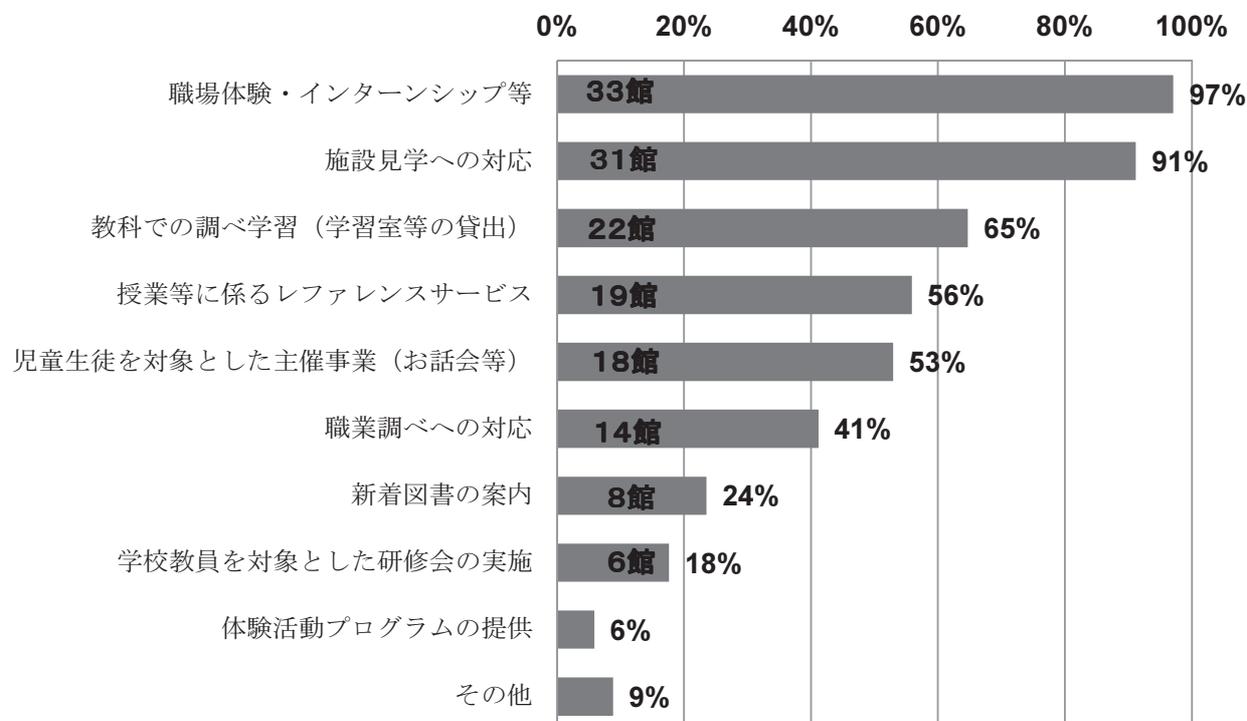
また、このデータでは図書館が中学校や県立学校に対しても積極的に連携を推進していることがわかる。内容としては、職場体験やインターンシップでの利用が中心となっている。

総じて、いずれの図書館も学校種に偏り無く、近隣の学校との連携を進めている実態がみえる。

問4 学校（児童生徒・教員）の貴館利用に関しておたずねします。

① 実施していること（記号）に○をつけてください。（複数回答可） n = 34

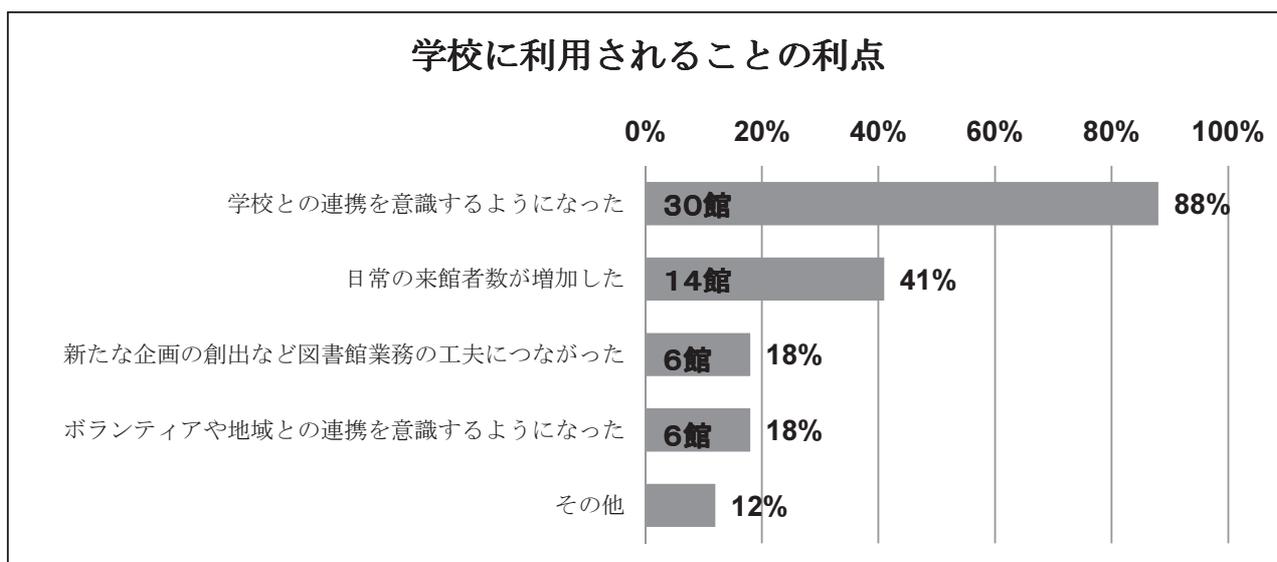
図書館が実施・対応する連携事業



連携事業を実施していると回答した 34 館の図書館で受入れが行われている。そのうち、「職場体験（但し司書資格取得に係る実習を除く）の受入れ」が最も多く、33 館（97%）となっている。これは県内の中学校が実施する職場体験学習（マイチャレンジ事業）や高等学校の行うインターンシップにおいて、図書館での職場体験を希望する生徒の多いことを示している。同時に図書館側がそれに対応して、受入れを積極的に行っていることも示している。また、施設見学への対応が 31 館（91%）となっており、小学校 2 年生の生活科で実施される「町探検」や小学校 3 年生の社会科で実施される「身近な地域の学習」の見学場所として図書館が選択されている現象を示すとともに、図書館がそれらの要請に積極的に対応していることがわかる。

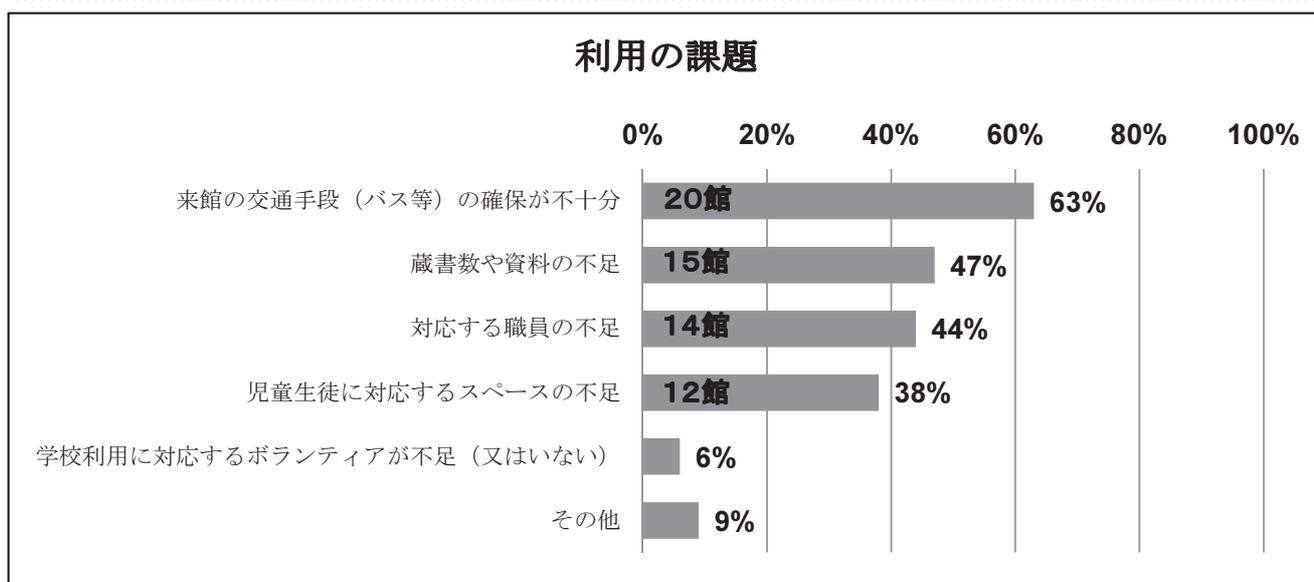
それに続くのが、教科での調べ学習（学習室等の貸出）の 22 館（65%）、授業等に係るレファレンスサービスの 19 館（56%）、児童生徒を対象とした主催事業（お話し会など）の 18 館（53%）となっている。連携事業が図書館からの働きかけと言うよりも、学校の主体的な利用形態が多く、図書館からの提案や協働といった段階ではないことがわかる。利用内容の多くが学校の事業や教育課程であり、発展的な学習や図書館事業への参加の比率が少ないことが特徴である。これらは必ずしも図書館の使命（例えば図書の貸出など）や設置目的と合致しているわけではないが、連携の初期的な段階としてとらえることが必要であろう。

② 学校（児童生徒・教員）に利用されることの利点 （複数回答可） n = 34



図書館利用は学校が主体的に活動内容を選択しているが、図書館にとっては、「学校との連携を意識するようになった」が30館（88%）と最も多く、いかなる利用であっても学校がなんらかの形で図書館利用を進めることは、図書館職員の意識形成に大きな貢献をしていることがわかる。また、「新たな企画の創出など図書館業務の工夫につながった」「ボランティアや地域との連携を意識するようになった」という回答はともに6館（18%）あり、図書館に学校との連携を促進させる望ましい影響を与えていることがわかる。さらに「日常の来館者数が増加した」の14館（41%）となっており、図書館にとって利用者増につながる肯定的な回答が多くなっている。「その他」として、「団体貸出により、児童生徒が本に接する機会が増える」（3館）、「選書の際の参考になる」（1館）という回答も見られた。

③ 学校（児童生徒・教員）の利用にともなう課題 （複数回答可） n = 32



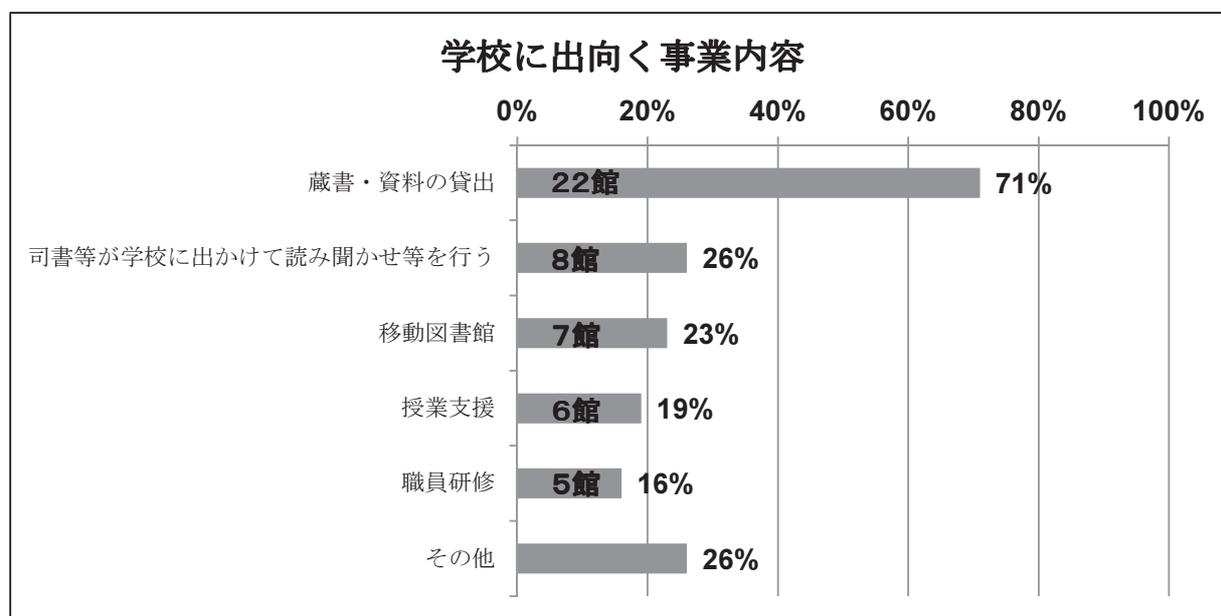
学校からの受入れを実施している 34 館のうち、32 館から回答を得た。その中では、「来館の交通手段（バス等）の確保が不十分」が 20 館（63%）と最も多い。次に、「蔵書数や資料の不足」15 館（47%）「対応する職員の不足」が 14 館（44%）、「児童生徒に対応するスペースの不足」が 12 館（38%）となっている。

これらのことから、学校の利用は進んでいるものの、受け入れる図書館側の受入基盤が整備されていないことがわかる。特にアクセスの問題や蔵書数、職員、スペースなどの課題は、図書館ではなく教育委員会が総合的に検討する課題である。また、蔵書・資料の不足の側面としては、学校利用の場合、同一学年の児童生徒が同一の資料を同時に使用する傾向があるためでもある。

「その他」としては、「図書館に対する率直な要望が皆無」など、図書館側に受入れの意志があるにもかかわらず、学校側からの要望が無いこと自体が課題となっているケースや、「児童生徒だけの来館時の安全確保」「図書館利用に対するマナー意識の低さ」「図書館の利用方法が周知されていない」など、連携を行う際の、事前指導のあり方や役割分担が課題となっているケースも見られる。

### 問5 学校へ出向く活動（館外活動）についておたずねします。

#### ① 実施している事業（複数回答可） n = 31

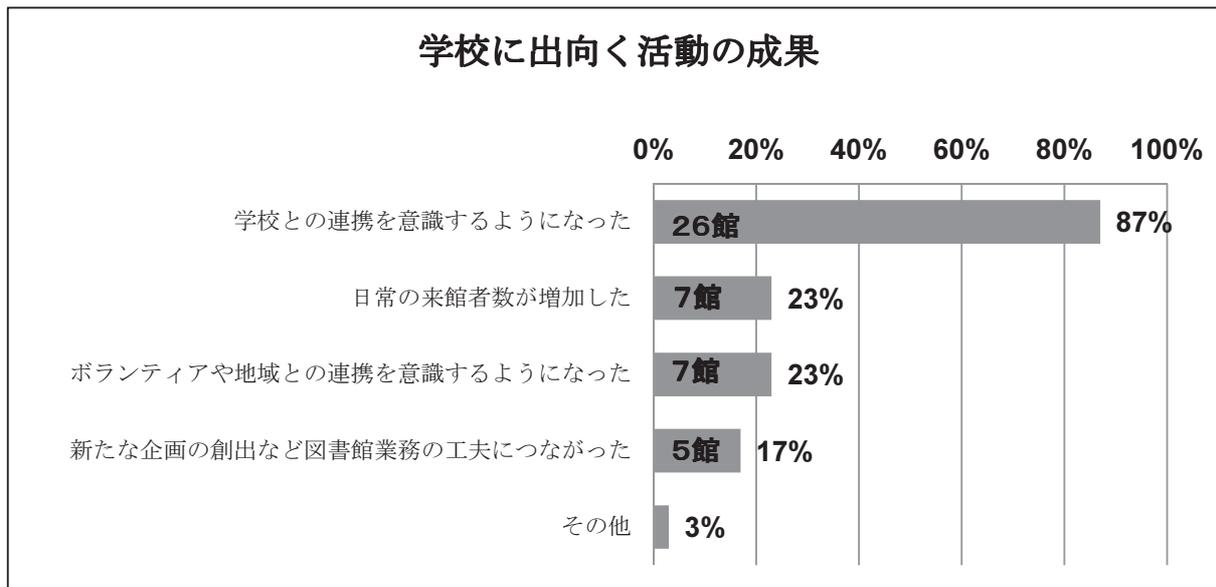


回答のあった 34 館中、31 館(91%)が学校に出向く活動を行っている。内容は「蔵書・資料の貸出」が最も多く、22 館(71%)となっており、「司書等が学校に出かけて読み聞かせ等を行う」が 8 館(26%)、「移動図書館」が 7 館(23%)と続いている。「授業支援」は 6 館(19%)、「職員研修」は 5 館(16%)が実施している。また、「その他」として「学校図書館支援」(3 館)「ブックトーク」(2 館)「講演会」(1 館)などが挙げられている。

学校（児童生徒）が図書館に来館して利用する場合に比べ、図書館が学校に出向く場合は、図書資料の貸出をはじめとする図書館の本来の業務が主体となっている。

専任の学校司書等が配置されていない場合、配架や図書の整理など学校図書館支援は、児童生徒の利用促進や教員の負担軽減につながる取組として効果が大きいと考えられる。

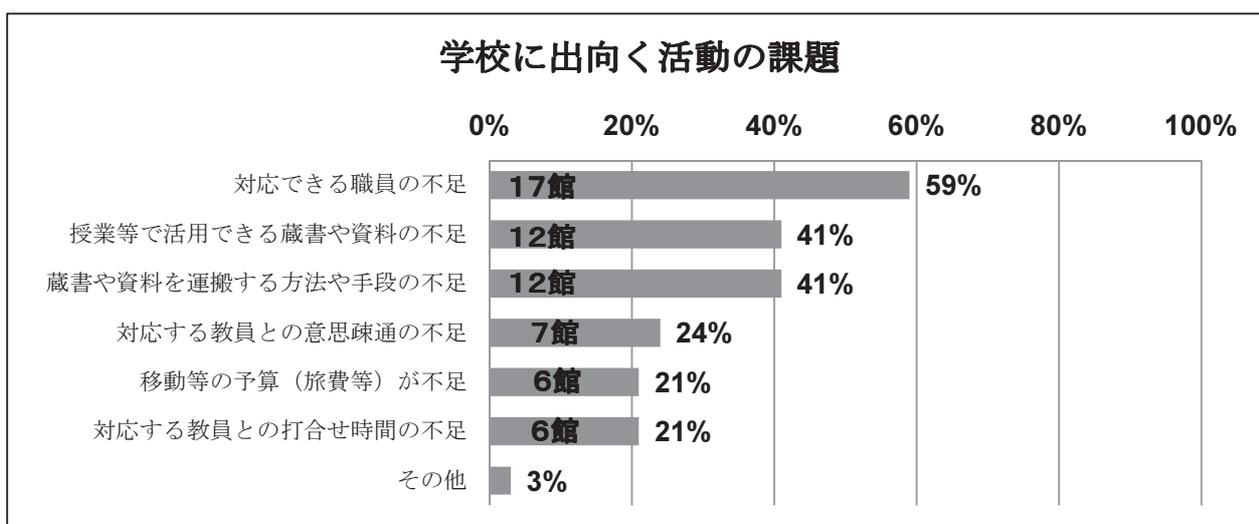
② 学校へ出向く活動（館外活動）事業を実施することによる成果（複数回答可） n = 30



学校に出向く活動を実施している 31 館中、30 館から回答を得た。その中では、「学校との連携を意識するようになった」という回答が 26 館（87%）と他の回答を大きく上回った。これは学校を図書館に受入れる事業と共通しており、実際に司書が学校に出向くという体験に連携への意識を高める効果のあることが明らかとなった。それに続くのが「日常の来館者数が増加した」「ボランティアや地域との連携を意識するようになった」で、それぞれ 7 館（23%）となっており、「図書館業務の工夫や改善につながった」との回答は 5 館（17%）であった。「その他」として「図書の貸出数の増加」につながったとする回答も 1 館から寄せられた。

しかし、具体的な連携の効果としては、意識の形成に寄与する程度であり、図書館活動の充実や利用者数、図書の貸出数といった成果には必ずしもつながっていないこともわかる。

③ 学校へ出向く活動（館外活動）事業の実施にともなう課題（複数回答可） n = 30



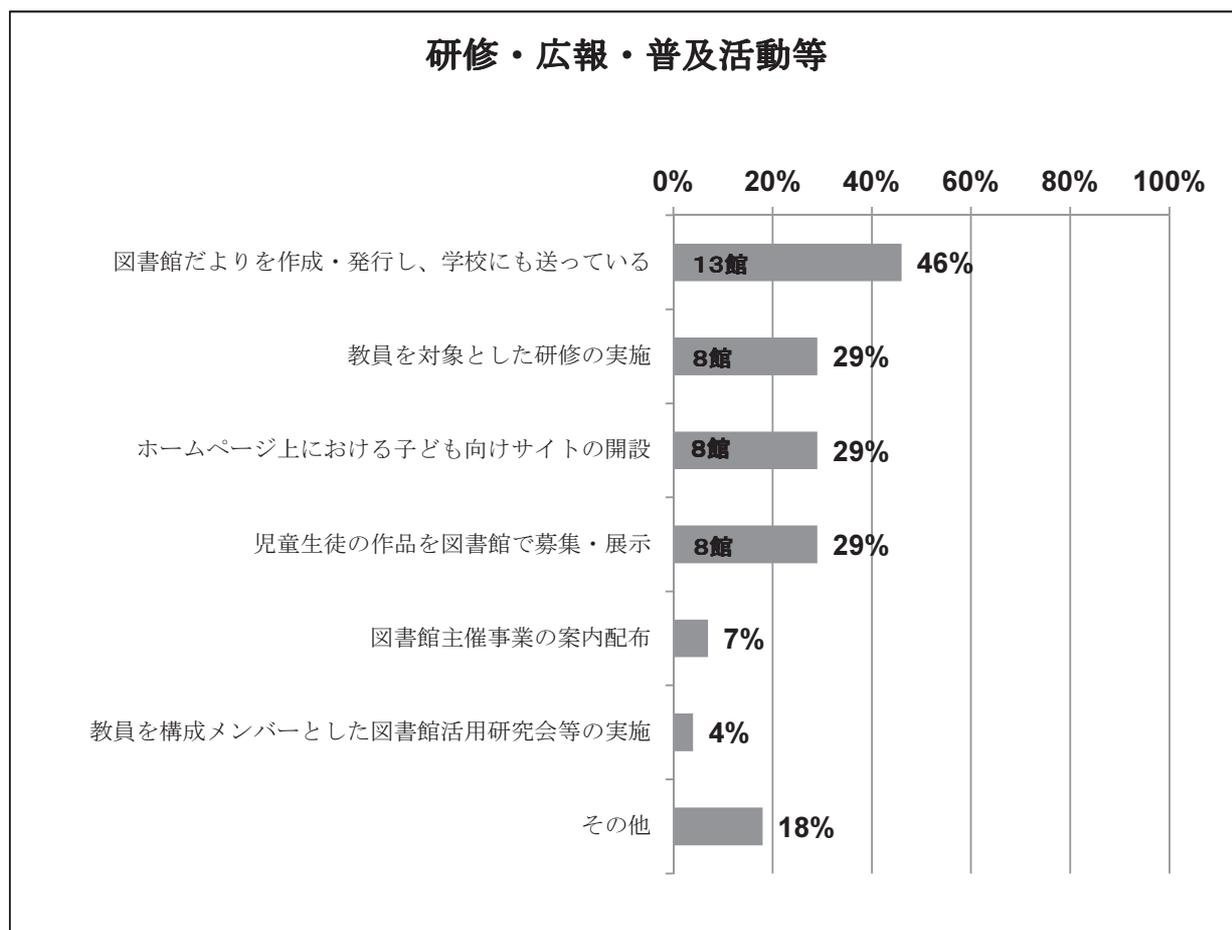
館外活動を実施している 31 館中、30 館から回答を得た。「特にない」という 1 館以外は何らかの課題を抱えている事実が明らかになった。最も多かったのは、「対応できる職員の不足」で 17 館 (59%) であった。それに続くのは、「授業等で活用できる蔵書や資料の不足」「蔵書や資料を運搬する方法や手段が不十分」でそれぞれ 12 館 (41%)、「対応する教員との意思疎通の不足」が 7 館 (24%)、「移動等の予算 (出張旅費) が不十分」「対応する教員との打合せ時間の不足」がそれぞれ 6 館 (21%) となった。

やはりここでも学校との連携を進めるための基盤が整備されていないことが明らかになった。財政悪化に伴う職員数の減少などがある反面、図書館に対するニーズは高くなっていることから、こうした結果になったものと思われる。また、図書館の資料の整備の仕方が学校利用に必ずしもマッチングしていないため、こうした結果となってあらわれていると考えられる。

ついで特記すべき事項としては、教員とのコミュニケーションについてやや課題意識が見られることである。これはこれまでの博物館や公民館との連携の課題についても同様の指摘が見られ、教員との具体的なコミュニケーションが連携の成否に影響していることが読み取れる。

**問 6 研修・広報・普及活動等についておたずねします。**

**① 実施している事業 (複数回答可) n = 28**

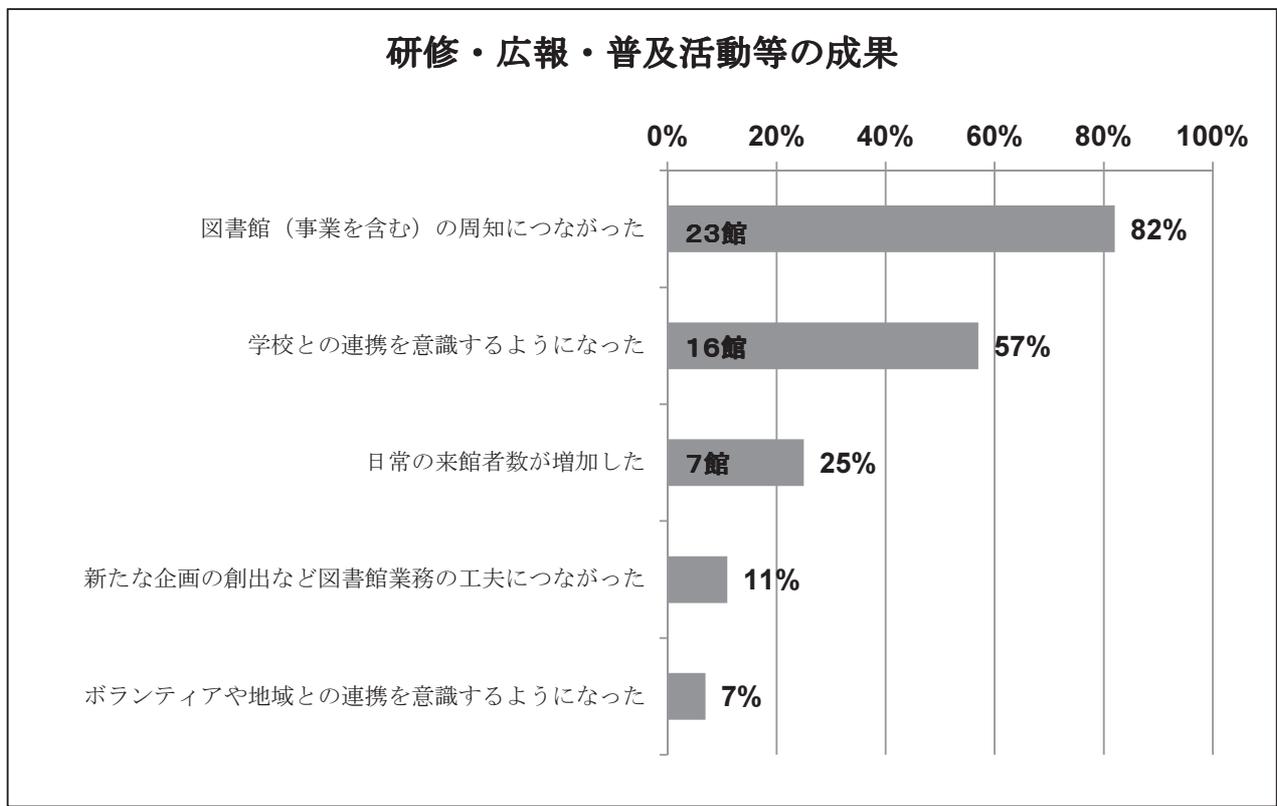


回答のあった 34 館中、82%の 28 館が連携に関する研修・広報・普及活動等を行っている。最も多いのは、「図書館だよりを作成・発行し、学校にも送っている」の 13 館（46%）で、次に「児童生徒の作品を図書館で募集・展示」「教員を対象とした研修の実施」「ホームページ上における子ども向けサイトの開設」がそれぞれ 8 館（29%）であった。また、「図書館主催事業の案内配布」を行っているのは 2 館、「教員を構成メンバーとした図書館活用研究会等の実施」は 1 館で行われるのみであった。

全体として図書館と学校との情報の交換や共有が進んでいないことがわかる。図書館だよりの送付でさえ、半数に満たない。教員研修、子ども向けの HP など 8 館程度であり、図書館が学校との連携を推進していると回答している割には、情報公開や共有がうまく進んでいる状況ではない。

「その他」として、「子どもの読書ボランティア指導者派遣」「図書館情報発信事業等の広報」「ヤングアダルトコーナーの蔵書リストを作成・配布している」「推薦図書リストの配布」などの回答があった。

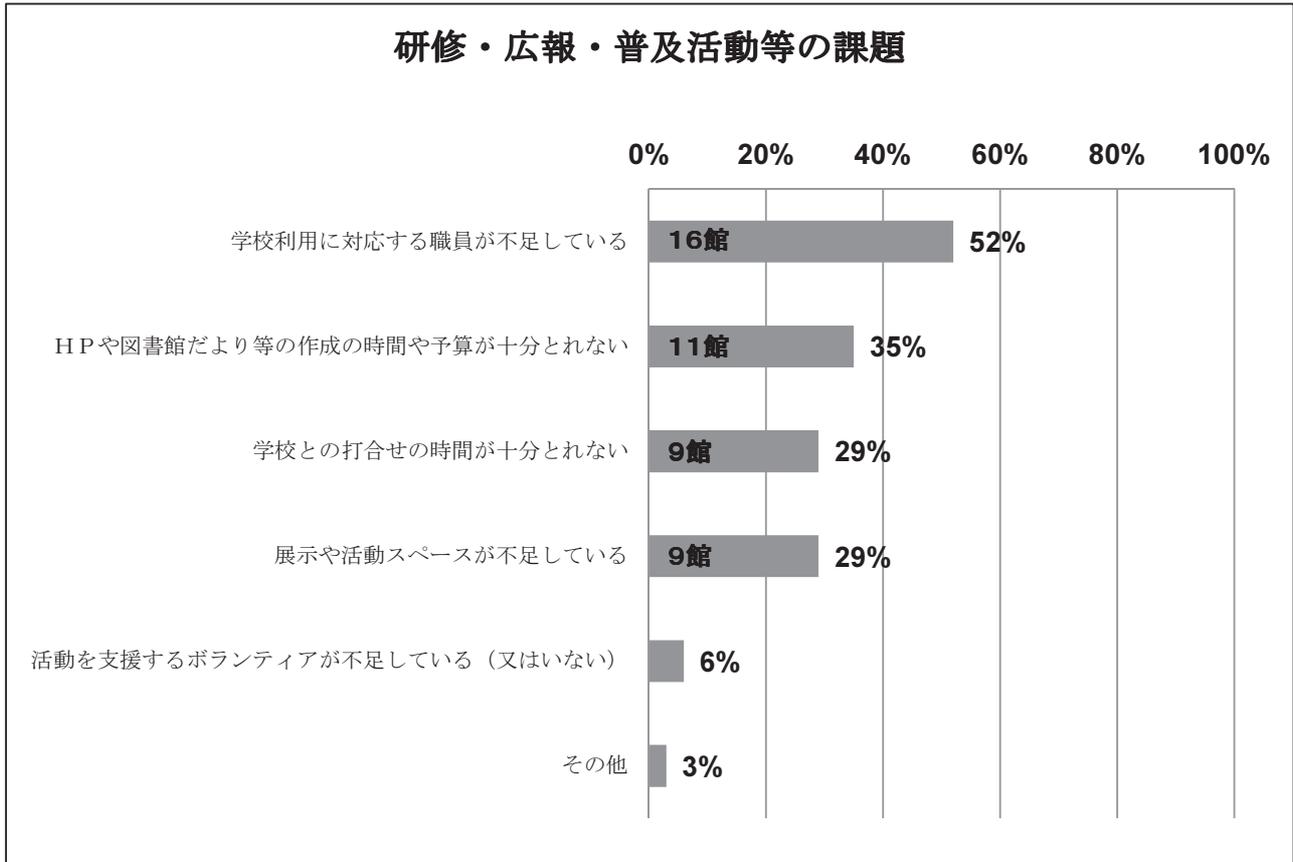
**② 研修・広報・普及活動等を実施することによる成果** (複数回答可) n = 28



研修・広報・普及活動等の活動を行っている 28 館全てからの回答があった。最も多かったのは、「図書館（事業を含む）の周知につながった」で 23 館（82%）であった。ついで、「学校との連携を意識するようになった」が 16 館（57%）、「日常の来館者数が増加した」が 7 館（25%）、「図書館事業の工夫や改善につながった」が 3 館（11%）、「ボランティアや地域との連携を意識するようになった」が 2 館（7%）となっている。

成果は全体として「周知」「意識」などやや抽象的なものが多く、具体的な数字に表れるような成果にはつながりにくい状況であることがわかる。

③ 研修・広報・普及活動等にもなう課題 (複数回答可) n = 31



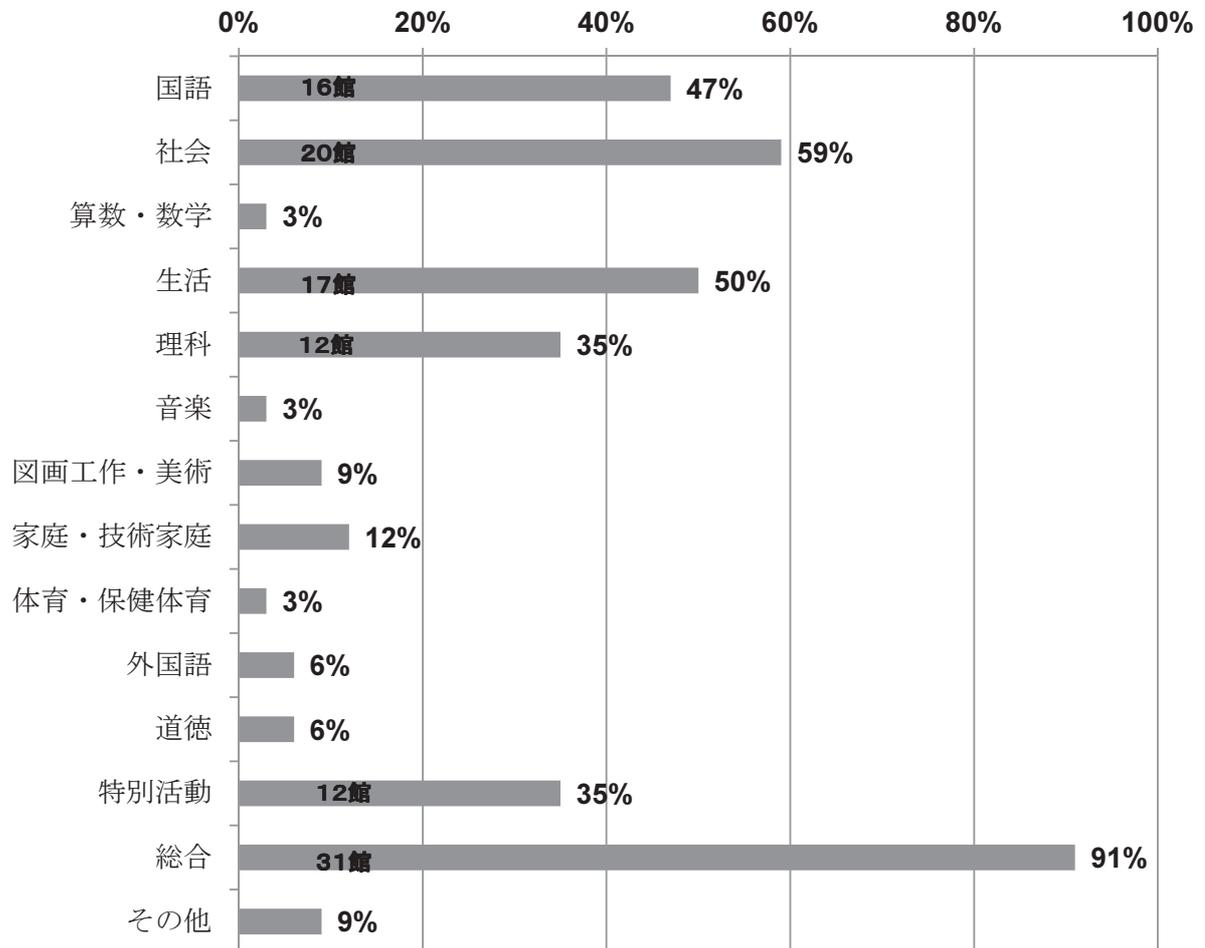
研修・広報・普及活動等の活動を行っている28館以外に、研修・広報・普及活動等の活動を実施していない3館からも回答があり、計31館からの回答があった。最も多かったのは、「学校利用に対応する職員が不足している」が16館(52%)となっており、館外で行う連携事業と同様に人員の不足が大きな障壁となっていることが明らかである。続いて、「ホームページや図書館だより等の作成の時間や予算が十分とれない」が11館(35%)、「学校との打合せの時間が十分とれない」「展示や活動スペースの不足」がそれぞれ9館(29%)となっており、ここでも学校との連携を推進するための基盤整備が不十分であることが明らかになっている。「その他」として、「学校の担当者を知らない」という回答もあり、連携の根本となる人間関係がそもそも構築されていないという問題点も垣間見られる。

**問7 問4～6の回答の中での特徴的な取組事例について具体的に御紹介ください。**

- ・ 中学校生徒による職場体験学習の受入れ・ 近隣小学校児童による施設見学の受入れ・ 子どもの読書ボランティア指導者派遣事業
- ・ 学校巡回図書（全小中学校に対し、1箱40冊のセットを毎週巡回する）、学校希望図書サービス（授業や学習に使用する本をテーマで申し込むと学校まで配送する）、私学との連携（前記のサービスについて、国立・県立・私立まで拡大している。）
- ・ 図書館ネットワーク事業（図書館と小・中学校図書室をネットワークで接続することにより、蔵書の一元管理と共有を行い、相互貸借やレファレンス機能を拡大する。）
- ・ 図書館ボランティアが市内の小中学校の図書室で活動している。
- ・ 学校支援員との連携（図書館に支援員からリクエストがあった場合、資料をまとめて用意し、貸出している。支援員は来館し、まとめて借りていく。21年度はリクエストで648冊貸出した。）
- ・ 学校図書及び図書館についてのレファレンス研修・各学校の図書館に対する要望相談会の実施
- ・ 動く図書館事業・学校での図書館登録・職員のブックトーク
- ・ 自動車文庫（主として絵本を運搬箱に積み、幼稚園での貸出を実施している。）・小学生の作品展（小学校に依頼し、授業の中で制作した作品を展示する。）
- ・ 「この本よんでみて！コンテスト2010」（市内の小中学生を対象に友達に勧める本の「おすすめカード」と「本のオビ」のコンテストを開催している。）
- ・ 学校等訪問（地区内の幼・保・小学校へ職員が出向き、読み聞かせや本の紹介を行っている。）
- ・ 小3対象の図書館利用推進事業、中学生のマイチャレンジ、高校生のインターンシップ受入れ
- ・ 中学生のマイチャレンジ、高校生のインターンシップ受入

問8 貴館を利用する学校ではどのような教科・領域に関して利用していますか。該当する記号すべてに○をつけてください。(貴館で掌握している範囲で回答願います。) n = 34

### 利用対象となる教科・領域



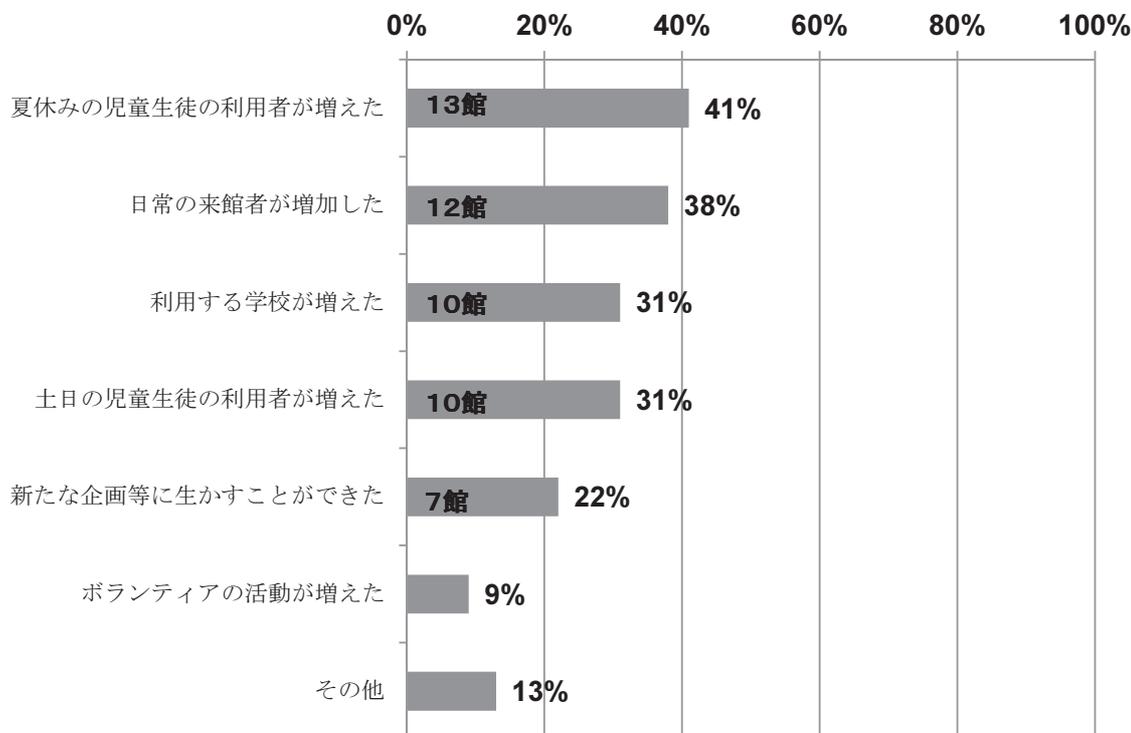
この設問に関しては、34館から回答があった。「総合的な学習の時間」が最も多く、31館(91%)で群を抜いている。続いて、社会科が20館(59%)、生活科が17館(50%)、国語が16館(47%)、理科と特別活動(遠足等)が12館(35%)という順であった。その他、全く利用がないという教科・領域は無かったが、おおむね10%以下の利用であった。

教科別としては、「総合的な学習の時間」「社会科」「生活科」が圧倒的に多い。これらの教科では積極的に「見学」などの体験的活動を取り入れたり、「調べ学習」を行ったりすることが多くなっていることから、図書館利用によって教科の目的を達成しようとしているとみることができる。また、利用のない教科がないということに注目しておきたい。博物館利用では、総合、社会、特活での利用が飛び抜けて多かったが、図書館の場合はやや似ているものの、極端な傾向を示してはいない。それぞれの教科で図書館を利用する展開が可能であり、博物館に比べて学校との連携を推進するための条件が整っていると考えられることができる。

問9 学校との連携における成果はどのようなことですか。該当する記号に○をつけてください。

(複数回答可) n = 32

### 連携の成果



この設問に対しては、32館より回答を得た。最も多かったのは「夏休みの児童生徒の利用者が増えた」で13館（41%）、次いで「日常の来館者が増加した」が12館（38%）、「利用する学校が増えた」「土日の児童生徒の利用者が増えた」が10館（31%）、「新たな企画等に生かすことができた」が7館（22%）、「ボランティアの活動が増えた」が3館（9%）となっている。「その他」として、「児童生徒の読書量が増えた」「地域ボランティア・学校支援ボランティア・学童保育関係者の利用が増加した」「図書館利用についてガイダンスが出来た」などの回答も見られた。

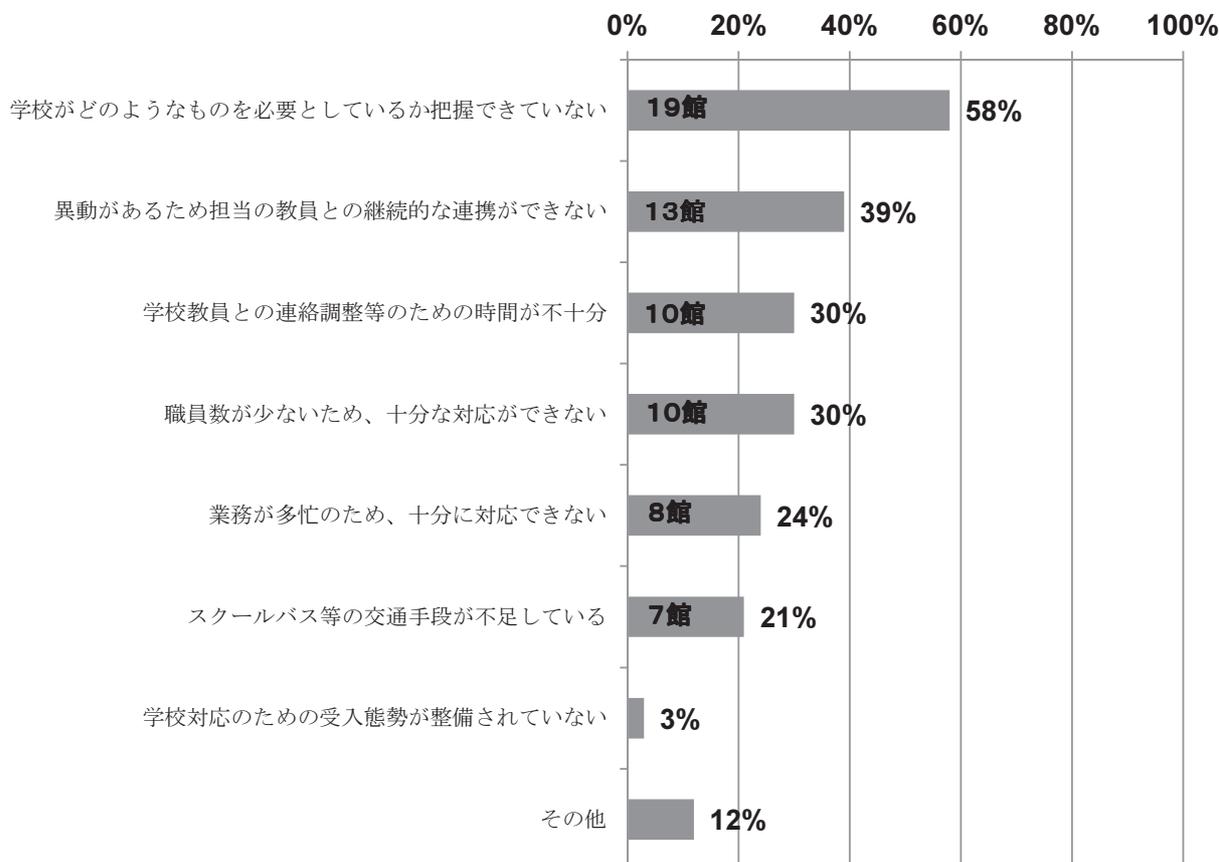
学校との連携が進展することにより、図書館の存在や利用方法の周知が図られ、良質なユーザーが増加することは図書館にとって大きなメリットであり、またそれが学校側にとっては児童生徒の読書量の増加や授業の充実というメリットにつながるという互恵的な関係構築が図られる点で、連携には大きな意義を見出すことが出来る。

問 10 学校との連携における課題はどのようなことですか。該当する記号に○をつけてください。

(複数回答可)

n = 33

### 連携の課題



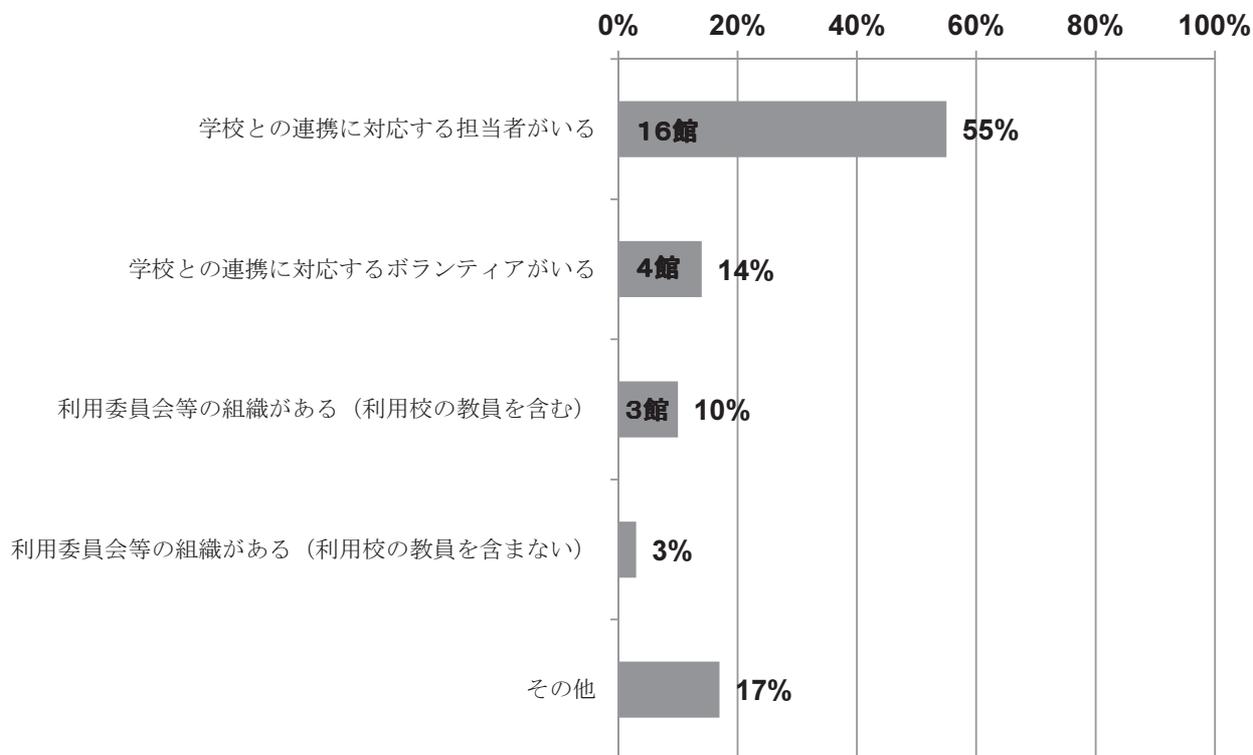
33 館より回答を得た。最も多かったのは「学校がどのようなものを必要としているか把握できていない」で 19 館 (58%)、次いで「異動があるため担当の教員との継続的な連携ができない」が 13 館 (39%)、「学校教員との連絡調整等のための時間が不十分」「職員数が少ないため、十分な対応ができない」が 10 館 (30%)、「業務が多忙のため、十分に対応できない」が 8 館 (24%)、「スクールバス等の交通手段が不足している」が 7 館 (21%)、「学校対応のための職員の研修等受入態勢が整備されていない」が 1 館 (3%) という順であった。「その他」として、「公立図書館との連携を考えてくれる先生が少ない」「連携のための資料の確保が困難である」という回答も寄せられた。

この結果から、連携を推進していながらも、学校のニーズ把握ができていない現状が浮かび上がってくる。これは連携の基本的な課題である。さらに現状においては、図書館側と学校側のつながりが司書と教員の個人的な関係の上に成り立っていることがうかがえる。教員の異動によって連携が左右されることはそのことを物語っている。また、大きな問題は教員とのコミュニケーションが不十分であることである。そこには多忙感や職員数の問題が背景にあるものと思われる。

問 11 学校との連携のための組織体制についておたずねします。該当する記号に○をつけてください。

n = 29

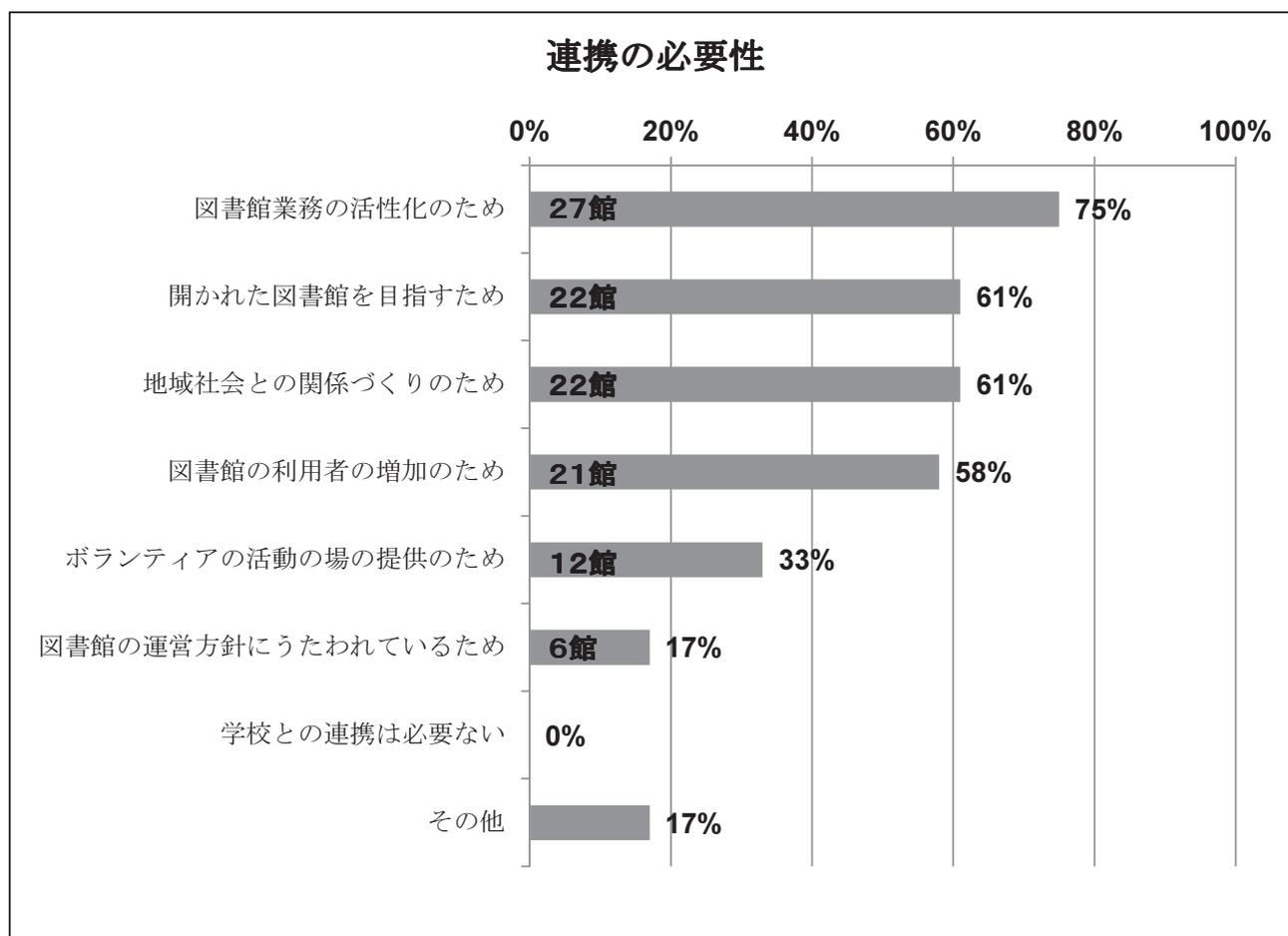
### 連携に係る組織体制



29 館から回答を得た。「学校との連携に対応する担当者がある」のが 16 館 (55%)、「学校との連携に対応するボランティアがある」のが 4 館 (14%)、「利用委員会等を組織している (利用校の教員を含む)」が 3 館 (10%)、「利用委員会等を組織している (利用校の教員を含まない)」が 1 館 (3%) となっている。その中には、「学校との連携に対応する担当者がある」かつ「利用委員会等を組織している (利用校の教員を含む)」が 1 館、「学校との連携に対応する担当者がある」かつ「利用委員会等を組織している (利用校の教員を含まない)」が 1 館、「学校との連携に対応する担当者がある」かつ「学校との連携に対応するボランティアがある」かつ「利用委員会等を組織している (利用校の教員を含む)」が 1 館と、複数の組織体制をとっている図書館もあったが、「連携に係る組織や体制がない」という図書館も 8 館 (28%) にのぼった。約半数の図書館に学校との連携を担当する職員があることは、図書館の学校との連携に対する意欲が高まっていることをうかがわせる。しかし、前述したように図書館と学校との濃密な連携は、未だ一部の特別な図書館の実践であるという現実も明らかになっている。

問 12 これからの図書館運営の上で、学校との連携の必要性について、該当する記号に○をつけてください。(複数回答可)

n = 36

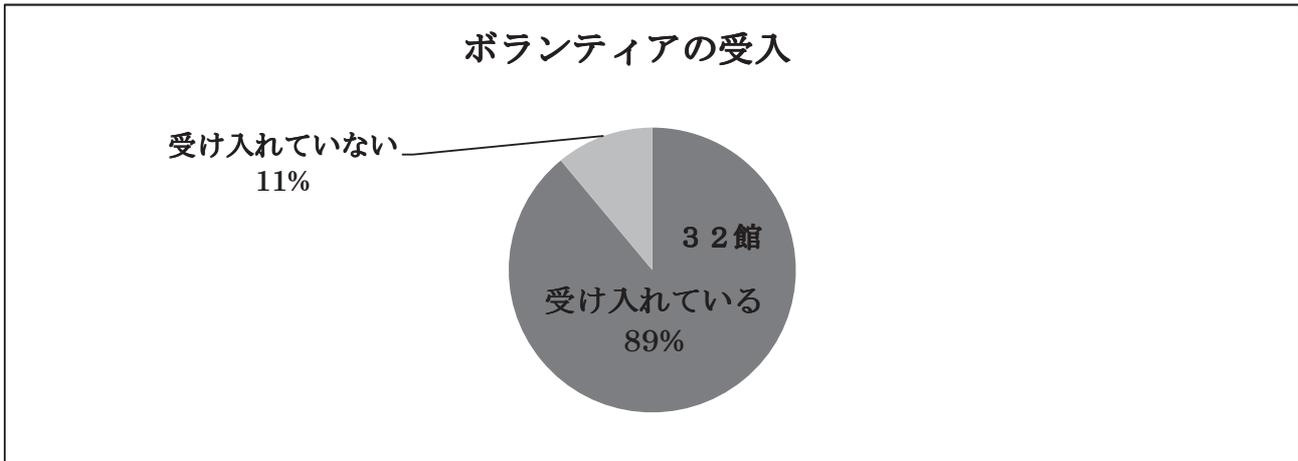


最も多かったのは、「図書館業務の活性化のため」で 27 館（75%）であった。ついで、「開かれた図書館を目指すため」「地域社会との関係づくりのため」が 22 館（61%）、「図書館の利用者の増加のため」が 21 館（58%）、「ボランティアの活動の場の提供のため」が 12 館（33%）、「図書館の運営方針にうたわれているため」が 6 館（17%）となっている。「学校との連携は必要ない」という回答は無かった。

「その他」の回答として、「学校図書館、学校内の読書活動を支援するため」「地域住民のための施設であるため」「本に親しんでもらう。本が好きで図書館が好きな利用者を育てるため」「子ども読書活動推進のため」などが挙げられている。

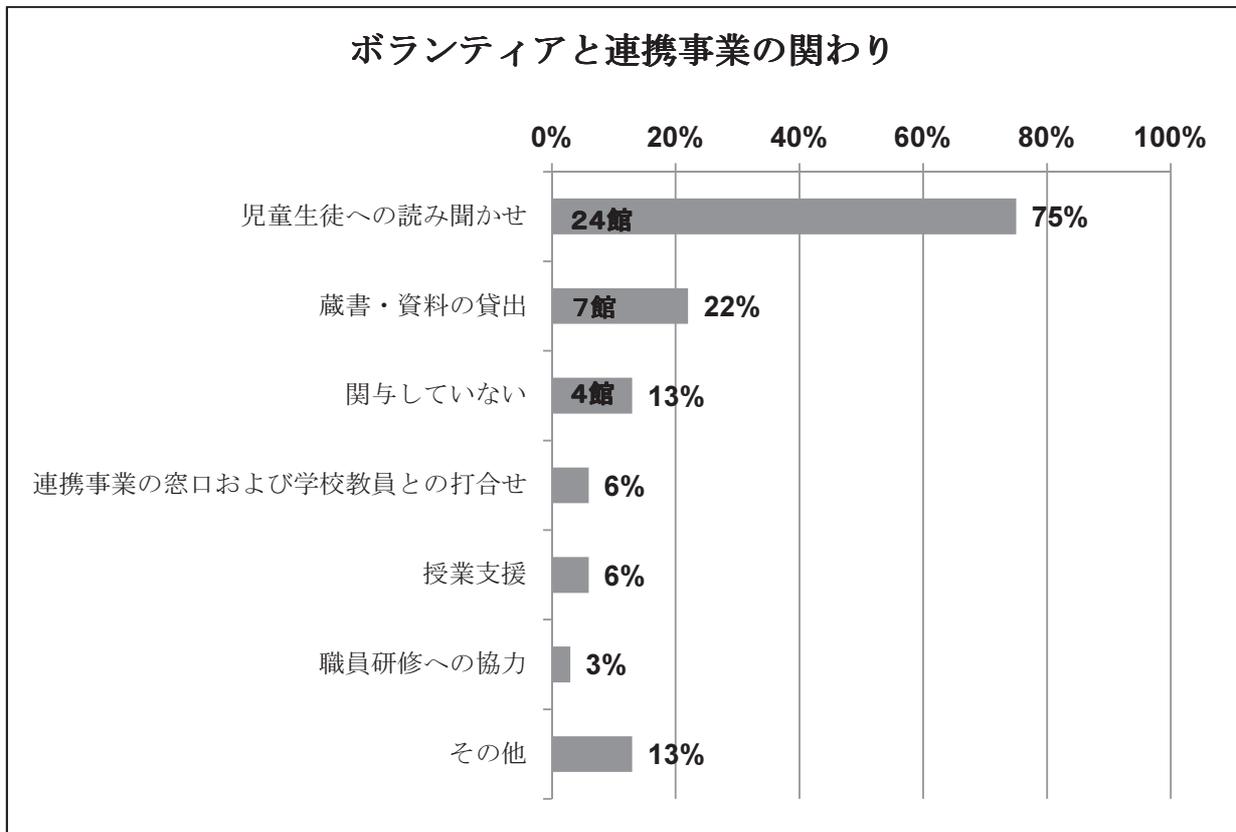
すべての図書館が学校との連携の必要性を感じているが、連携を行う目的にはそれぞれ違いが見られる。ただ、最終的には学校との連携が図書館にとってその存在意義を高める結果につながることを期待する点では一致を見ることと思われる。しかし、その中で単に利用者を増やそうという目的にとどまらず、学校との連携という新たな事業を、より活気のある職場づくりや魅力ある図書館づくりを推進するためのきっかけと捉える意識が上位に挙げられていることには注目したい。

問 13 貴館では図書館業務を支援するボランティアを受け入れていますか。該当する記号に○をつけてください。 n = 36



ボランティアを受け入れているのが 32 館（89%）、受け入れていないのは 4 館（11%）であった。学校と連携を行っている 34 館中、ボランティアを受け入れていない図書館は 3 館（9%）であり、連携を行っていない 2 館中、ボランティアを受け入れていない図書館が 1 館であった。

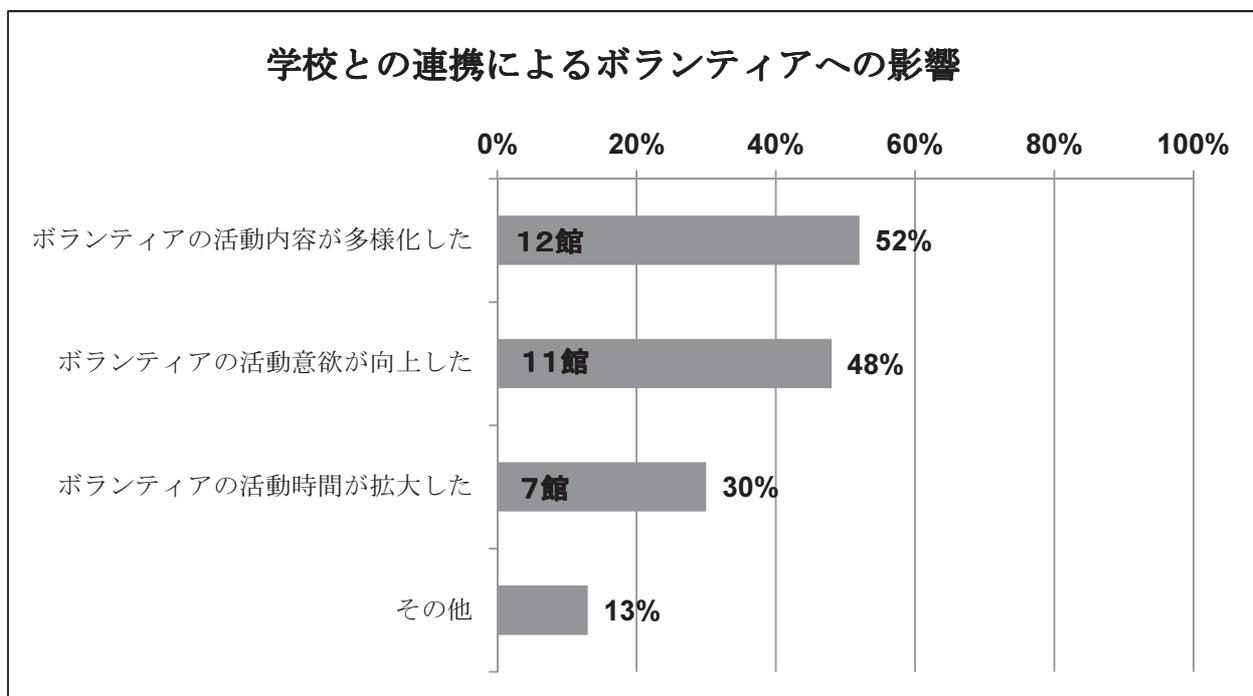
問 14 ボランティアの方々と、学校との連携事業との関わりについて、該当する記号に○をつけてください。（複数回答可） n = 36



図書館ボランティアを受入れる 32 館全てから回答があった。「児童生徒への読み聞かせ」が最も多く 24 館 (75%)、続いて「蔵書・資料の貸出」が 7 館 (22%)、「関与していない」が 4 館 (13%) 「連携事業の窓口および学校教員との打合せ」・「授業支援」がそれぞれ 2 館 (6%)、「職員研修への協力」が 1 館 (3%) であった。「その他」として、「子どもの読書ボランティア指導者派遣」「児童生徒への本の紹介・人形劇など学校行事への参加」「学校図書館支援事業」などが挙げられている。

図書館ボランティアが学校と図書館の連携に大きな役割を果たしていることがうかがえる。特に読み聞かせが主流であるが、他の領域も満遍なくひろく活動が展開されていることがわかる。ボランティアは職員の不足を解消するために存在するのではないが、ボランティアが学校との連携で今後も大きな役割を果たす可能性をこのデータから読み取ることができる。

**問 15 学校との連携の中で、ボランティアが対応していることの成果は、どのようなことですか。該当する番号に○をつけてください。(複数回答可) n = 23**

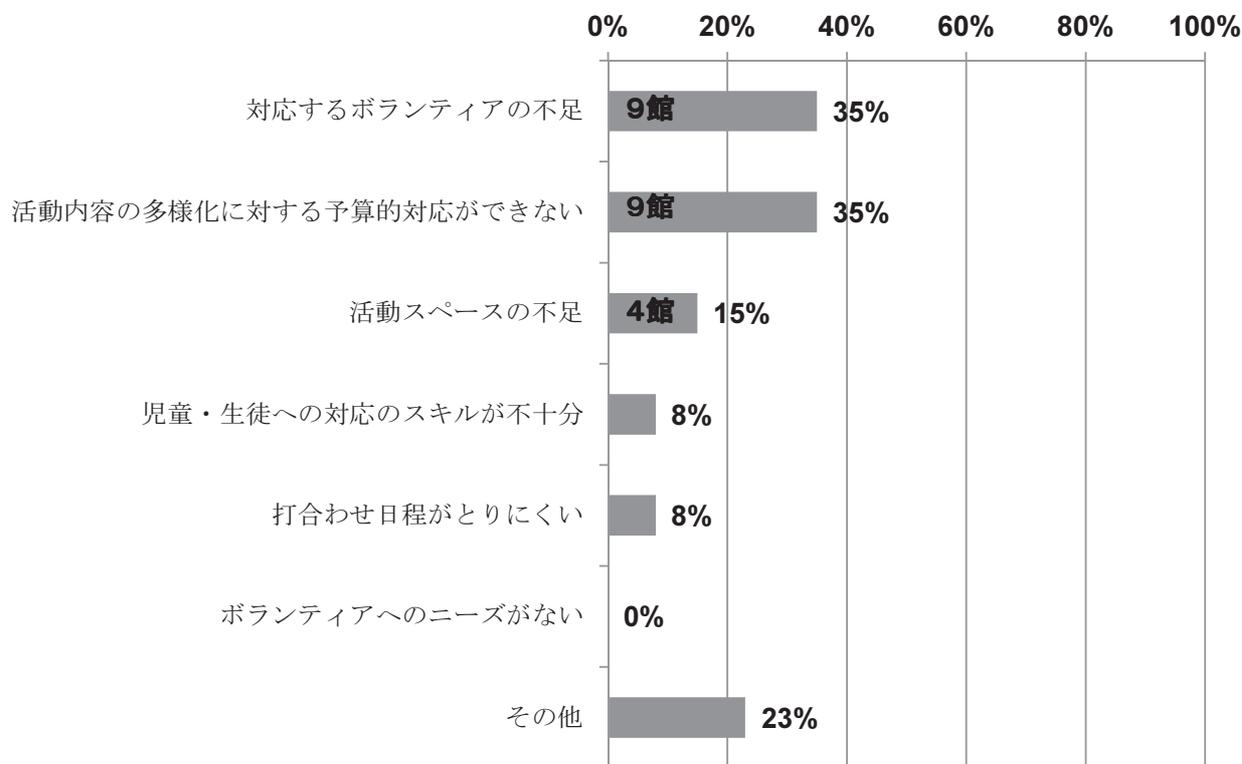


学校との連携に際し、ボランティアが関与していると回答した図書館 28 館のうち、23 館から回答を得た。最も多いのは「ボランティアの活動内容が多様化した」で 12 館 (52%)、「ボランティアの活動意欲が向上した」が 11 館 (48%)、「ボランティアの活動時間が拡大した」が 7 館 (30%) でそれに続いた。「その他」としては、「世代間交流が図れた」「子ども読書活動の推進」などの回答が見られた。

この結果から、学校との連携は、図書館ボランティアに活動内容の多様化をもたらすとともに、活動意欲の向上にも一定の効果を与える可能性があることを指摘することができる。したがって、ボランティアを受入れる図書館では、ボランティアに連携事業への参画を促すことによって、ボランティア活動の活性化を図るとともに、学校との連携事業を充実させるという二重の効果を期待することができるであろう。

問 16 学校との連携の中でボランティアが対応していることの課題は、どのようなことですか。該当する番号に○をつけてください。(複数回答可) n = 26

### 学校との連携におけるボランティアの課題



学校との連携に際し、ボランティアが関与していると回答した図書館 28 館のうち、26 館から回答を得た。「ボランティアへのニーズがない」という回答は皆無であり、ボランティアが図書館と学校との連携に果たす役割は大きいと考えられる。そのことを示すように、「対応するボランティアが不足」という回答が「活動内容の多様化に対する予算的対応ができない」という回答とともに 9 館（35%）で最も多くなっている。また、「活動スペースの不足」という回答が 4 館（15%）、「打合わせ日程がとりにくい」「児童・生徒への対応のスキルが不十分」がそれぞれ 2 館（8%）となっている。

「その他」としては、「連携の内容がはっきりしない」「ボランティアの自主性に任せている」「できれば毎年研修を行いたいがい講師が見つけにくい」「学校側の担当者によって対応が変わる」「連携事業の内容についての研修を必要としている」などが挙げられた。ボランティアの養成やスキルアップの問題をはじめ、ボランティアに係る予算や時間の問題、連携におけるボランティアの関与のあり方の情報不足等々、課題が多岐にわたっていることが示されている。